

各駅周辺のあり方

長久手古戦場駅

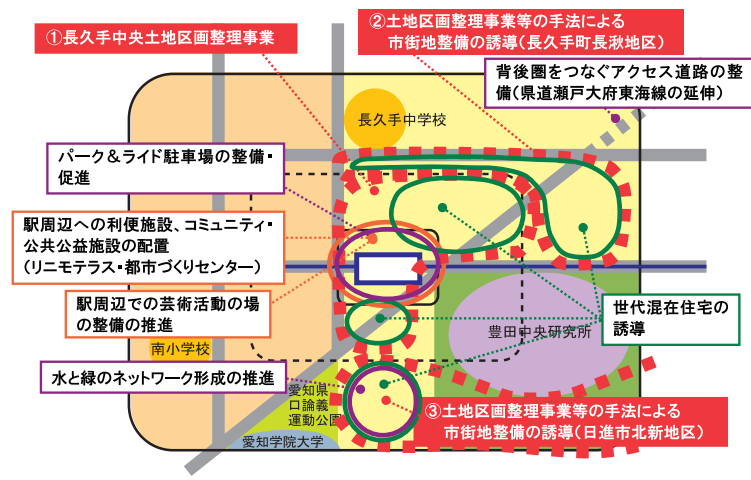
～長久手の新しいシンボル地区～

[現況]
 ・県道瀬戸大府東海線と県道力石名古屋線が交差する位置にあり、名古屋市からつながる市街地と田園地帯の境界にあたります。
 ・駅西側では市街地が広がり住宅や沿道商業施設が建ち並び、駅東側では農地が広がる中に既存集落が散在しており、周辺には愛知学院大学を始め複数の大学が立地しています。



[将来の整備イメージ]
 駅前には商業・公益サービス・レクリエーション施設などが集積し、その周りには住宅地区が広がるなど多様な機能が凝縮されている。

[まちづくりの主な取組]
 ・長久手中央土地区画整理事業
 ・土地区画整理事業等の手法による市街地整備の誘導（長久手町長湫地区）
 ・土地区画整理事業等の手法による市街地整備の誘導（日進市北新地区）



芸大通駅

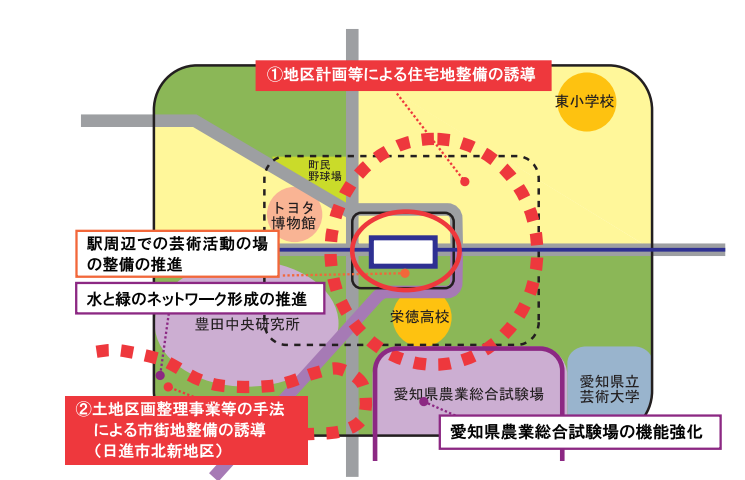
～芸術・文化ゾーンの玄関地区～

[現況]
 ・名古屋瀬戸道路が通り、駅南側に長久手インターチェンジが位置し、駅北側に県道力石名古屋線など道路が複雑に交差しています。
 ・近隣にトヨタ博物館や豊田中央研究所、愛知県農業総合試験場、愛知県立芸術大学、栄徳高等学校といった施設が立地しています。



[将来の整備イメージ]
 駅前広場や周りに住宅が整備されている。また、トヨタ博物館や愛知県立芸術大学などへのプロムナードがアートで彩られている。

[まちづくりの主な取組]
 ・地区計画等による住宅地整備の誘導
 ・土地区画整理事業等の手法による市街地整備の誘導（日進市北新地区）



公園西駅

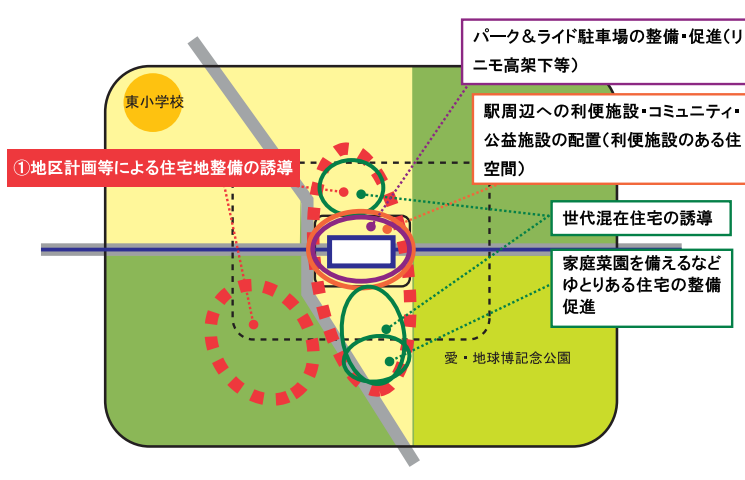
～パークサイドタウン地区～

[現況]
 ・県道田研名古屋線と県道力石名古屋線が交差する位置にあり、愛・地球博記念公園の西側に位置しています。
 ・地区の中央部を香流川が流れ、その流域に農地が広がっています。
 ・2つの幹線道路沿道には、住宅や沿道商業施設が点在しており、その背後は山林となっています。



[将来の整備イメージ]
 整備された田園地帯の中、駅前には広場と利便施設を含んだ密度の高い住空間が配置され、周りには菜園と一体となった住宅が立ち並んでいる。

[まちづくりの主な取組]
 ・地区計画等による住宅地整備の誘導



愛・地球博記念公園駅

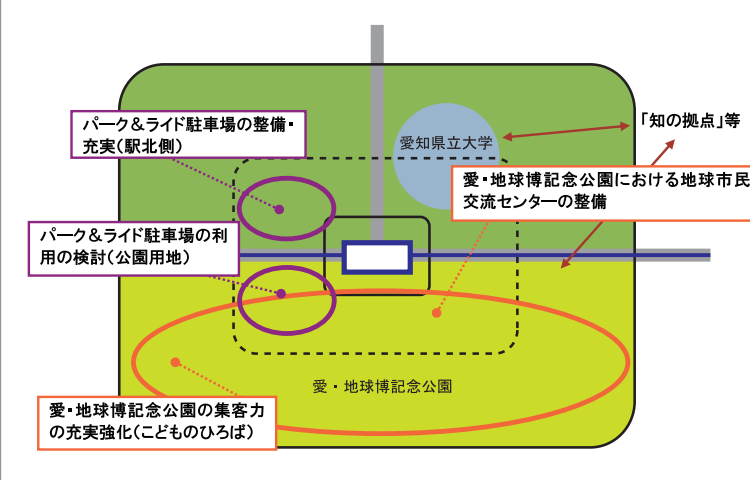
～地球市民交流の拠点地区～

[現況]
 ・愛・地球博記念公園の玄関口であり、駅北側には愛知県立大学が立地し、その他は山林となっています。
 ・公園利用者や学生など多くの人々が行き交う地区です。
 ・駅北西側はパーク＆ライド駐車場が整備されています。



[将来の整備イメージ]
 愛・地球博記念公園には地球市民交流センターを始め魅力的な施設が整備され、また、駅周辺には利便施設も立地している。

[まちづくりの主な取組]
 ・愛・地球博記念公園における地球市民交流センターの整備
 ・愛・地球博記念公園の集客力の充実強化



陶磁資料館南駅

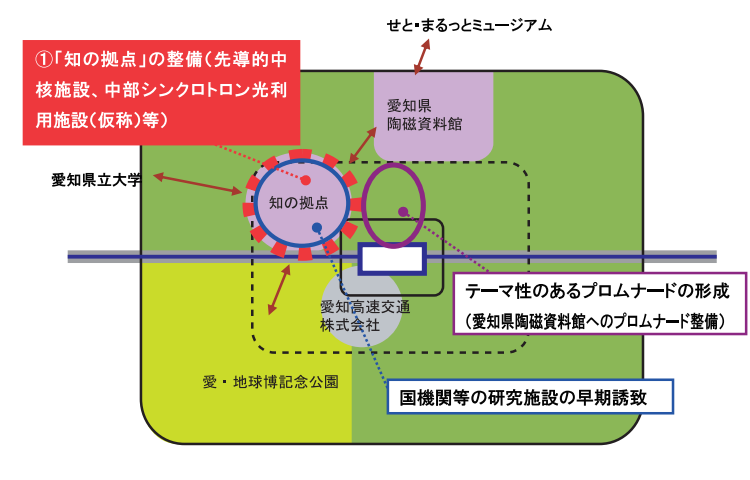
～科学技術の発信地区～

[現況]
 ・愛・地球博記念公園の東側に位置し、愛知県陶磁資料館への玄関口であり、地区の大部分には、山林が広がっています。
 ・駅北側には、愛知県陶磁資料館へと続く遊歩道が整備されているほか、次世代モノづくり技術の創造・発信の拠点となる「知の拠点」が計画され、先導的中核施設や中部シンクロtron光利用施設（仮称）など各種研究施設の整備が予定されています。



[将来の整備イメージ]
 愛知県陶磁資料館、知の拠点、愛・地球博記念公園、愛知県立大学などが連携し、文化、科学技術、スポーツ・レクリエーションの複合的な交流の場を形成している。

[まちづくりの主な取組]
 ・「知の拠点」の整備
 （先導的中核施設、中部シンクロtron光利用施設（仮称）等）



八草駅

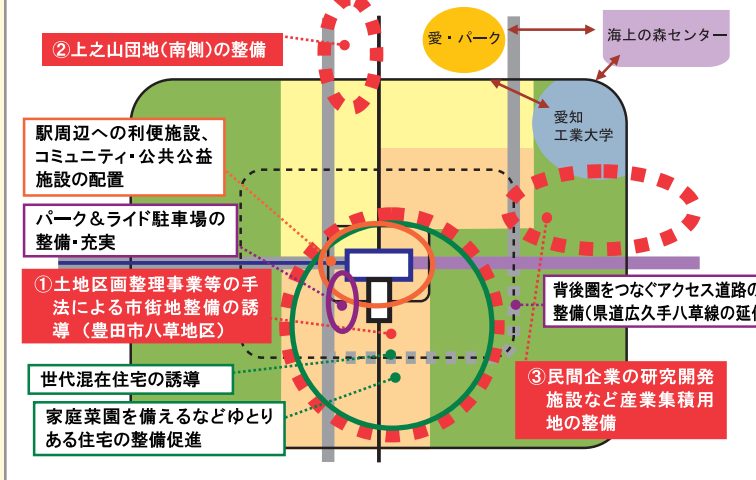
～広域交通が結節する新都市地区～

[現況]
 ・リニモと愛知環状鉄道との結節点に当たり、駅前広場の整備なども行われています。また、地区の中央から東へ猿投グリーンロードが伸びており、八草と八草東の2つのインターチェンジが設けられています。
 ・駅周辺は南北に細長く市街化区域に指定されていますが、勾配のある地形の中に生産緑地が散在しています。



[将来の整備イメージ]
 駅を中心に利便施設を含む環境共生型の良好な市街地が形成されており、広域交通の拠点、地域の生活拠点として、住宅、企業の事業所などが周囲の里山と調和している。

[まちづくりの主な取組]
 ・土地区画整理事業等の手法による市街地整備の誘導（豊田市八草地区）
 ・民間企業の研究開発施設など産業集積用地の整備



海上の森

[保全・整備の方向性]
 ・愛知県の「海上の森保全活用計画」をもとに、愛知万博記念の森として、自然環境や森林などの状況を継続的に調査・観察し、自然環境や生態系の変化や変動などに応じた的確な対策、保全策を講じつつ、将来にわたり保全を図る。
 ・施設ゾーンにあるあいち海上の森センターを、自然や海上の森を解説し、展示や資料、情報で学習できる施設として運営するとともに、海上の森を活用した、森林や里山に関する学習と交流の機会や場づくりなどを進める。

